

## 「名のり」の意味は？

福岡県人権研究所 副理事長 園田 久子

大学にきて、10代の終わり近くに部落問題に出会った。ある「むら」(被差別部落)の「解放子ども会」の中学生に英語と数学を教えるアルバイトだった。

小中高と、一度も部落問題を「教育」によって学んだことのないまま、大学生になり、その時の私は、無知そのものの状態だった。そのアルバイトは、大学、大学院、その後の、いくつかの講師時代をつうじて、10年間続けた。その間、無知というのは、ゼロではなくマイナスであることに気づかされる日々だった。その意味は、自分の言動で相手が傷ついていても、無知は「ごめんなさい」を云う力もないからである。そういう無知に気づくことは人としてとても大切なことである。

もう、10年位講師をしているある市民講座のでできごと。自分が「むら」の出身であることを「名のり」人がいるのは何故なのだろうと問いかけた。「名のり」はさまざま、部落解放運動をすることも書籍など書いて出身を明らかにすることも名のりである。受講生に自由に意見を出していただいた。「差別を無くしたいから」、「自分自身に誇りがあるから」、「人々に気づいてほしいから」・・・学びの場は自由だから、「自分の言葉でいうことが一番大切」と私は多様な意見をうながした。だが、時間をかけてもそういうパターン以外の答えは、なかなか出てこなかった。

命や人権に関わる答えは、数学のように「一つ」ではないが、私が抜きがたく考えていた「答え」はく「名のり」があるのは「差別があるから」、もっと正確に言えば、「差別する人がいるから」>だった。一番シンプルな欠かせない答え。差別される側の人ではなく、こちら側、差別する側の人の問題なのである。もともと、生れた時から穢れた人間など金輪際いないから。同じ人としてどこも変わらない。

私たちのこういう答え・考え方・発想には何が欠けているのだろうか。自分のこと、自分の立ち位置、差別する側から「名のり」の意味を考えるという視点が欠けているのだ。私たちは往々にしてこういう考え方・発想で部落問題の学び・研修を重ねてきたのではないだろうか。人権侵害、差別の問題の学びには「先生」(私も)というような中間の立ち位置など存在しない。

<相手の立場に立つ>というのは大切である。それは、最も人間らしい行為である。人間だけがそうできる唯一の生きものであるから。相手の立場から自分を照らす、相手の立場から見た自分の立ち位置を見つめ、そこからの「答え」を探すということである。

おおいた市人権イメージキャラクター キズナーズ



キッピー

ズータン

ナビー

部落差別をはじめあらゆる差別の解消には、「差別を許さない」と行動できる人の存在が重要です。わたしたち一人ひとりが、「偏見や差別は許さない」という姿勢を子どもたちに示せるよう、確かな認識につながる学びを積み重ねることが必要なのです。ぜひこの資料を活用してください。



check

もっと  
学ぼう！



人権・同和教育シリーズ  
(市報掲載)



みんなのねがい  
(10・2月全戸配布)

大分市教育委員会 教育部 人権・同和教育課

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号 (097)537-5651

発行：大分市教育委員会 発行年月日：2024(令和6)年3月31日